

八重山漁業
で現在7名
中田森浩氏
と。なお、
定置網に加
う観光漁業
直は当初石
ってきた。
用して養殖
タンクの数
変えるわけ
虫自の展開



3年前ま
いな施設
八重山は漁
なした。八
ハタヤシ
、輸送に
環境(施

とで八重
考えると
ないこと
の安定化
の視察を参
出来るこ

◆技術交流

産地直販直売施設視察研修

城 間 一 仁

1. 目的

糸満漁協では、1995年に鮮魚直売店である「お魚センター」を試験的に開設し、集客・販売について地域に根付いたものになっている。しかし、仮設店舗のため、規模が小さく、衛生管理についても不十分であり、新たに魚介類の直売施設、海産物レストラン、水産物加工施設等を整備するため建設プロジェクトチームを漁協内に設置したところであり、施設の視察と運営等について意見交換することを目的とした。

2. 日程

平成16年10月27日(水)
～29日(金)

3. 場所

遠賀漁協柏原活魚センター
福岡県遠賀郡芦屋町西浜町3839-2
脇田漁協汐入の里
福岡県北九州市若松区大字安屋1742

4. 参加者

糸満漁協 上原 隆(漁協参事)
金城利治(職員)
奥平寛徳(漁協役員)
鷺山英史(漁協青年部)
上原幸仁(設計士)

水産試験場普及センター
城間一仁

5. 協力者

遠賀漁協石橋参事
脇田漁協本田組合長
日本水産株式会社 山本氏

6. 内容

(1) 遠賀漁協柏原活魚センター

平成4年度に旧活魚センターを町単独事業で整備したが、プレハブ構造のため老朽化がひどく、平成11年度に福岡・北九州から積極的な集客を図ろうと、耐久性が高く、新鮮な魚介類を食することのできるテラスを整備した活魚センターの新築を要望し、福岡県水産業振興対策事業にて平成12年度・13年度の2カ年事業により実施した。また、当センターは計画以上の成果を上げ、特に食事のできるテラスは当初5席しかなく、土・日・祝祭日になると2時間以上も待ち時間ができるほどになり、現在の施設ではまかないきれない状況になった。そのため、平成14年度より2度の増築で施設の充実を図り、現在では約150名が収容できるようになった。地元で獲れるヤリイカの単価向上を目的とし、1匹100円強のイカを200円で仕入れ3匹1,000円で販売している。仕入れは、当初、順番制であったが、値段が上がる時期になると他に売ってしまうものもいたため、現在では決まった人に周年通して販売価格を周年変えないようにしている。平成15年度の売り上げは約1億5千万円で漁協の自営事業で独立採算性を採っている。

(2) 脇田漁協汐入の里

マリノバージョン事業の一環としてフィッシャーマンズワープ内に民間の事業者p_balance(株)が建設、整備、運営する交流の中核施設で、コミュニティホール、レストラン、農林水産物の直売所がある。直売所には脇田・安屋・島郷および近隣の地区の新鮮な農林水産物等を展示販売し、脇田農林水産物出品協議会を設立し、管理運営等の支援を行っている。脇田農林水産物出品協議会規約と同運営規定に基づいて運営

され、会員制を採り、会員は同一生計世帯で1名とし入会金3,000円・年会費3,600円となっている。販売は事業者運営による委託販売形式で12%を手数料として納めており、価格は出荷者において定めている。売上げの40%が水産物で、商品には船名を表記しており、販売品の事故および苦情処理は出荷者の責任となっている。売上高は平成16年度4～9月の6ヶ月間で1億7千2百万円（水産物で7千万円）とのことだった。来客数は、平日で500～600人、日曜には1,400～1,500人が訪れる。視察に訪れたのが正午であったが、ほとんどの商品がなくなっており、集客力のすごさを感じた。品薄のため出荷調整の必要はないが、今後の品薄対策として、水槽の部を造り新鮮な商品を午後あとも提供できるようにしたいとのことだった。

7. 所感

上記2カ所の視察研修の後、日本水産株式会社、北九州中央卸売市場、山口県の下関市地方卸売市場生き生き唐戸市場、宗像漁協お魚市場、あんずの里等の視察を行ったが、活気ある直売店経営の基礎となっているものは、レストランを併設したり、水産物のみでなく農産物等も同時に直売する豊富な品揃えによって客の幅を広げ、集客力をつけることが第一歩ではないかと感じた。



視察に訪れた5名（唐戸市場にて）



遠賀漁協柏原活魚センター



レストラン施設にて石橋参事（写真右）と意見交換を行う視察メンバー



「汐入の里」
農林水産物直売所内部の様子



唐戸市場内に設けられた
漁業者直売コーナー



脇田漁協本田組合長（右から2番目）
と意見交換



北九州中央卸売市場にて
意見交換を行うメンバー



あんずの里（農林水産物等直売所）
正午過ぎにはほとんどが売り切れる



日本水産株式会社にも訪れた
（左から2番目が山本氏）